

第1章：手話ってどんなことば？

手話は、手指動作と非手指動作（表情や目線、口の形など）を同時に使う視覚言語です。手話もひとつの言語ですので、様々な言語的特徴があります。

【手話】



■ 手話は世界共通？

日本の手話、アメリカの『ASL(アメリカ手話)』など、手話も国によって異なります。ろう者の国際会議では統一された『国際手話』を使いますが、国際交流では主にASLが使われるようです。

■ 手話は日本国内では同じ？

日本国内でも、その地域ごとの”方言”があります。

例えば【名前】という手話は、関東と関西で異なります。

関西の【名前】は「名札」、関東の【名前】は「拇印」を表しています。

【名前】



★ コラム：手話の成り立ち～なぜ地域によって手話が異なるのか～

日本で初めての聾学校「京都盲啞院」が1878年に設立されました。聾学校の教師が中心となり、生徒達の家庭ごとに異なる「ホームサイン」を統一することで、「手話」を形成していったと言われています。

[※ホームサイン]：聴覚障害者が、ごく身近な人とのコミュニケーションで使用する「身振り手振り」

手話は、その地域で使われていた「ホームサイン」を統一・発展して形成されたことから分かるように、その国・地域の文化や慣習に大きく影響を受けています。

💡 語源を知ってみよう！

【こんにちは】 2人が「お辞儀」している様子。挨拶でお辞儀をするのは日本の文化です。

【ありがとう】 お相撲さんが、勝ったときに手刀を切る仕草。

【男・女】 聴者もジェスチャーとして使う、親指で「男」、小指で「女」というのも、日本ならではの。

【川】 漢字の「川」が元になっている表現です。

【黒】 髪の毛の黒を表します。京都などでは墨を磨る様子で「黒」を表す場合もあります。

【こんにちは】



【ありがとう】



【男】



【女】



【川】



【黒】



[一般]



[京都]

💡 手話学習のポイント！

★手話辞典は関東の手話がベースです。「教えてもらった表現が辞書と違う！」という機会も多々あります。手話も生きた言語ですので、辞書の表現にこだわりすぎず、地域差を楽しみながら一つずつ学んでいきましょう。

★語源を知ることは手話習得の助けになる場合もありますが、「語源が曖昧なもの」「使われていく中で形が変化したもの」もありますし、「語源なんか意識しないから、知らない」と言うろう者もいる（聴者が日本語の語源を知らないのと同様）ので、語源の学習や質問はほどほどに。